

# 進路だより



2023年10月30日(月)  
福島県立あさか開成高等学校  
進路指導部 第4号

## 進路指導部長より

国際科学科の生徒諸君に、私が作成したオリジナルの小論文の問題を課します。  
興味のある者は挑戦してみてください。

☆ 次の資料を読んで、後の問いに答えよ。

### [資料]

この世界には多種多様な生物が生息する。何種の生物が自生するかは正確には誰も知らないが(名前が付いているのは200万種に満たないが、実際にはその五倍から数十倍の生物種が生息すると推定されている)、近年の人間の諸活動によって多くの種が絶滅し、または絶滅に瀕していることは確かだ。これに危機感をもった科学者たちの一部が、約20年前に「生物多様性(Biodiversity)」なる語を発明して政治的な運動を始めた。この運動は功を奏し、多くの先進国の政府は生物多様性の保全を政策の一つとして採用するようになった。まず、はっきりさせておかなければならないことは「生物多様性の保全」そのものは政治であって科学ではないことだ。それは、この世界にたくさんある価値の一つにすぎないのであって、最重要な価値でも絶対的な価値でもない。そのことをきちんと理解しないと、「生物多様性の保全」のためなら何をしても許される、という原理主義になってしまう。

周知のように環境省は、生物多様性保全の一環として、いわゆる外来生物法を制定して、外来種の規制を始めた。この法律が、他の価値との\*トレード・オフの観点からいかなる合理性をもつのか(あるいはもたないのか)を論評し、さらには、生物多様性の保全にどれだけ実効性をもつかを検討することにある。

そもそも生物多様性とは元来、政治的に発明されたもので、科学的に定義されたものではないため、かなり恣意的に雑多な概念が詰め込まれている。自然保全の観点からは、次の三つが重要だと思われる。

- ①種多様性(生物の種類数)
- ②遺伝的多様性(一つの種内の遺伝的なバリエーションの豊富さ)
- ③生態系多様性(様々な生態系自体の多様さ)

この三つは必ずしも常に整合的であるとは限らず、互いに矛盾してしまうこともあり、それが話をややこしくしている。

『日本の論点』編集部編による

\* トレード・オフ … 目的に応じて、優先する要素と犠牲にする要素を決めること。  
「あちら立てればこちらが立たず」

問 資料から自然の生態系を守るという観点上「外来生物法」について、あなたはどのように考えるか、立場を明確にして800字以内で論述せよ。

【模範解答は裏面にあります】

## 模範解答

外来生物を規制するのは、ある地域の生物相の固有性を守りたいからだということはわかる。しかし、固有性の保全と多様性の保全は必ずしも一致しない。そして、外来種排除にばかり目を向けると、木を見て森を見ないことになりかねない。現行の外来生物法は、大局的な生物多様性保全の観点からは、労多くして益少なしの寛が否めない。

まず、外来生物の輸入規制の方法を見直す必要がある。輸入規制の方法には二つある。一つは、輸入してもよい生物を指定して他は原則禁止にするやり方。もう一つは輸入禁止の生物を決めて、他は原則容認するやり方だ。私は前者の方式を採用すべきだと考える。ところが、なぜか日本のやり方は後者だ。リストに載っている生物さえ覚えてしまえば、現場で輸入規制するのも簡単だ。

例えば、日本の野外にすでに定着しているアライグマやブラックバスについても、莫大な税金を使って駆除をしている。しかし古来より様々な外来生物が根付いてきた歴史があり、近くの池や川にいる「コイ」のほとんども、海外から入ってきた魚だ。このように日本の在来種と思っている生き物も、長い歴史から見れば、外来種なんてこともよくある。環境省の定義からは外来生物であっても、当の動物にしてみれば、日本の野外で生まれた日本の動物なのだ。また、高級食材として名高い上海ガニは、日本の生態系を乱す恐れがあるとして外来生物法により、事前の届け出がない限り原則輸入禁止である。ところが、旅行者が土産として持ち込むケースがみられ、適切な方法での流通を考える必要がある。

現在、一般論として在来種を守るためなら何をしても許されるという風潮だ。しかし、祖先の出自によって野生動物の命を差別するのは問題だと言わざるを得ない。同じ生命なのに、外来種というだけで悪者扱いされて駆除される。これはむしろ自然保護に反する、危険な差別思想ではなからうかと考える。(785字)

3年生はいよいよ受験に向けての準備が本格的になってきました。出願書類や志願理由書、小論文対策・面接練習など、それぞれの指導担当の先生のところ熱心に通う姿がよく見られます。何でもそうですが、最初からうまくできる人はいません。小論文も何回も書き直すことで、自分のスタイルが確立していくことが多いです。苦しい思いをしているのは自分ばかりではないですよ。**がんばれ26期生！！**

## 第2回進路希望調査の結果をお知らせします (10月2日実施)

進路希望	1年			2年			3年(8月現在)		
	女	男	計	女	男	計	女	男	計
大 学	42	13	55	48	14	62	36	20	56
短 大	9	0	9	18	1	19	17	0	17
大 学 校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専 門 学 校	62	4	66	50	5	55	46	11	57
就 職	10	1	11	6	0	6	18	1	19
留学(外国学校)	1	0	1	0	0	0	1	0	1
その他進路・進路未定	10	7	17	6	3	9	3	1	4
在 籍 者 数	134	25	159	128	23	151	121	33	154

進路希望調査結果を見ると、全学年とも進学希望の校種別の割合はほぼ同じような数字となっています。ただし1・2年生の希望は現段階では、まだ「ぼんやり・何となく」の希望で回答している生徒も多いと思います。これからの自分の目標や夢によっては、当然希望の進路が変わってきますので、今年度の後半で進路研究を深めていきましょう。なお、1年生の進路未定が17名となっていますので、少しでも早く進路について考えることが大切です。目標ができれば、学校生活もより主体的に取り組もうとする意識が高まります。**27・28期生もがんばろう！！**